

《誰もが遭遇する身近な薬害(親知らず抜歯の事例で説明)》

つい先日、薬の副作用で腎不全が起りかねない患者さんに遭遇しました。

もし稀なケースでしたら、時間を取って、まとめるようなことはしないのですが、誰もが遭遇する可能性が高く、個人的には、今後増えていくと予想しています。

なぜなら、遺伝子組み換えワクチン接種の暴挙が始まり、もうじき5Gも全国運用となるからです。

その上、以下に記載する薬の副作用なども加わって、さらに病人が増産されていくのが既定路線となっています。

ここまで事態が悪化してしまえば、少なくとも知識武装しなければ、この人災から逃れようがありません。

そこで、今後、皆さんが同じような目に遭遇したとき、

- ・慌てないで済むように
- ・適切な対処が取れるように
- ・身体に取り返しのつかないダメージを受けないで済むように

以下にまとめた次第です(自衛しないと、誰も助けてはくれなく、泣き寝入りするしかない、というのが現実です)。

前置きはこれぐらいにして、本題に入っていきます

過去を振り返ると、時々、薬害で危ない状態に陥っている患者さんに遭遇します。例えば、以下のような事例がありました。

◆副鼻腔炎で抗生物質(クラリスロマイシン)を2ヶ月服用されていて、突然、全身性エリテマトーデスを発症。

そこから更に強い薬を処方され、半年以上の入院にまで追い込まれる(70代女性)。

◆一時的に高かった血圧で、いきなり強い降圧剤を処方され、

そこから階段を転げ落ちるように調子を崩し、循環器不全で死亡(60代女性)。

◆風邪で処方された薬で、腎臓が壊れる寸前だった小学生の男の子

◆鎮痛剤(ボルタレン)を1年服用していて、腎不全になり、現在透析入り(40代男性)

現時点、偶然か判断つきかねている段階ですけど、携帯基地局鉄塔の近くに住んでいる方に多い傾向です。

ちなみに、携帯電話周波数は、現行の「4G」が6GHzですけど、「5G」では30~100GHzに跳ね上がります。

周波数が高くなればなるほど、生き物への影響は大きくなり、現行の**10倍前後のダメージ増大になる**と予想されます。すると、電磁波被害が、一挙に顕在化してくるかもと懸念しています(電磁波、電磁波と記載しましたが、それと同等以上の悪因子はいくつもあります。ただ、数値で示しやすかったので、電磁波を説明に用いただけです)。

環境要因の話は、今回メインテーマではないので別の機会にゆずり、「薬害」の話に戻します。

アメリカのジョンズ・ホプキンス大学が2016年に発表した調査では、

アメリカ人の**死亡原因の第3位**は、医療ミスや過剰な医療といった「**医療過誤(医原病)**」によるもので、

アメリカ国内で**年間25万人以上**が死亡すると推計されています。

そのうち、薬の副作用死は、推計**10万6000人**です(全米医師会報、トロント大学のチームの研究報告)。

自宅や老人施設で亡くなった患者は数字にカウントされていないので、

実際には、さらに多くの人が医原病で亡くなっているともいわれています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8d56346d96e656bf8c879fc02fcecab589bf65c0>

https://biz-journal.jp/2015/05/post_10031.html

この数字から、日本の場合の**薬の副作用死**を推計します

(医師執筆本に、この3倍の数値がありました、引用先を見つけれなかったため、この数字を用います)。

欧米では「**1剤処方**」が基本、多くても2剤であるのに対し、日本では**5剤以上**の処方当たり前になっています。

アメリカの人口は日本の約3倍ですから、単純換算して、日本も**少なくとも10万人**は亡くなっていると推計されます。

原則、5万人以上が市なので、毎年2つ以上の市が丸ごと消滅しているという、とても看過できない数字です。

ですので、まずは知識が必要なわけです(知らないことにはどうすることもできません)。

これから紹介する今回の事例も、紙一重で難を逃れた可能性もあり、ヒヤッとさせられました

(薬剤耐性が高かったから、もしくはダメージマージンが多く残っていたから、難を逃れられたと考えています。

なお、このようなケース、表に出てきていないだけで、相当数発生していると実感しています。ゆえに、今後、ますます増大していくと予想しています)。

どこかで引用した医師サイトには、「急性咽頭蓋炎」のような重症疾患は減っていくと書いてありましたけど、

- ◎年内5G運用開始で、全国民、免疫力が下がります。
- ◎メディアの煽るコロナ恐怖でも免疫力が下がります。
- ◎マスク装着でも免疫力が下がります。
- ◎遺伝子組み換えワクチン接種でも免疫力が下がります。
- ◎香害でも免疫力が下がります。

など免疫力が下がる要因だらけですので（そこに不適切な薬処方も加わり）、増えていくというのが、私の見解です。ちょうどその片鱗がうかがえる、誰もが遭遇する可能性のある「親知らず抜歯」の事例でご紹介していきます。

- ◆Aさん親知らず抜歯経緯 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/progress.pdf> (4頁)
- ◆(資料1) 親知らず抜歯に関連する医療情報 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/document1.pdf> (4頁)
- ◆(資料2) 抗生物質と鎮痛剤 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/document2.pdf> (7頁)
- ◆アナフィラキシーの症状 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/anaphylaxis.pdf> (資料2の参考書籍①p.5)
- ◆抗生物質 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/antibiotic.pdf> (資料2の参考書籍④p.159)
- ◆鎮痛剤 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/painkiller.pdf> (資料2の参考書籍④p.123)

【得られた教訓】

抗生物質を使用するあらゆる感染症の場面、鎮痛剤を使用するあらゆる痛みの場面で活かせる教訓です。

(抜歯に対して)

- ◆①親知らずを抜く、**少なくとも4、5日前から体調を万全に整えて**、免疫力を高めておく必要があります。
- ◆②抜歯後、**血餅が取れないように**、できるだけ患部に物理的な力がかからないように過ごします。
- ◆③痛みで食事をとりづらい場合でも、薬害リスクを下げる為に**こまめに水分だけ**は取る必要があります。
- ◆④「**歯性病巣感染**」「**歯原性菌血症**」のリスクを下げるために、**日々の口腔ケア**がとても大切です
(35歳で80%が発症しているという歯周病にならないよう、少なくとも毎日の**デンタルフロスケア**は必須)。

(解熱鎮痛剤に対して)

- ◆⑤鎮痛剤は、大変危険なロキソニン、ボルタレンでなく、**アセトアミノフェン**の処方をお願いします。
アスピリンではなく**アセトアミノフェン**です(商品名;カロナール、アセトアミノフェン、アンヒバ等)。

(抗生物質に対して)

- ◆⑥抗生物質を乱用していると、耐性菌の出現で、肝心な時に効果を得られなくなります。
抗生物質を使う必要のある時と、その必要のない時を知っておきましょう
(例;小児の「中耳炎」で頻繁に使われる抗生物質)。
抗生物質の種類についても最低限の知識を持っておきましょう(無理なら、一覧表を常時携帯)。
より安全なものが処方されているかも確認しましょう。
- ◆⑦副作用を減らすために、一緒に**整腸剤**(ビオフェルミン、ミヤリサンなど)を処方してもらいましょう。
- ◆⑧抗生物質服用後は、大切な大切な**腸内細菌叢バランスの回復**を図りましょう
(自然治癒力には少なくとも7種類ありますが、「腸内細菌叢バランス」はその一つなので)。
- ◆⑨抗生物質は、日々、特に**食肉、魚肉、抗菌グッズ**、それから**野菜、穀物**からも体内に入ってきています。
可能な範囲で、食べ物を選びましょう。

(薬全般に対して)

- ◆⑩できるだけ多剤服用を避けるようにしましょう。
- ◆⑪抗生物質と解熱鎮痛剤(痛み止め)を**一緒に服用するとき**は、
相乗作用で薬害が強くなりやすくなりますので、特に注意を払いましょう。
- ◆⑫薬を服用したとき、**脱水を起こすと**副作用が起こりやすくなります。**こまめに水分補給**しましょう。
- ◆⑬いざというとき、慌てないためにも、薬の副作用として**どんな症状が出るのか**を把握しておきましょう。
少なくとも、軽い副作用なのか、重大副作用につながる前兆症状なのか、見極める知識を持ちましょう。
(薬疹が出た場合、蕁麻疹と湿疹の区別など)。
いずれにしても、**発熱、紅斑、発疹、咽頭痛**や**咽頭に違和感**などを感じたら、すぐに受診しましょう。
- ◆⑭**蕁麻疹**(蚊に刺されたときのような膨疹)が出た時は、**アナフィラキシーに移行しないか**要注意観察です。
- ◆⑮**点滴を受ける前に**、どんな薬剤を使うのか、またどんな副作用が起こるか、必ず説明を求めましょう。
(おそらく何も説明なしで点滴されていると思いますので)。

(その他)

- ◆⑯重症時の**ステロイド使用**は、医師に確認を取ってから使用しましょう。
- ◆⑰**痰の色**で何が分かるか把握しておきましょう。
- ◆⑱5G運用が始まりますので、電磁波対策が必要です
(CMCスタビライザー、メディックアンバーなど。購入しても、もちろん極力携帯電話の使用は控えます)。